

切り取ってご利用ください

## 展覧会関連企画・ワークショップ 「はんこでつくるオリジナル絵本」

**展**覧会の関連企画として、市内在住の絵本作家・しまだともみ氏によるワークショップを開催します。  
はんこを使って、お話から製本まで全部手作りとなる、世界に一つだけの絵本が出来上がりますので、ぜひ、ご参加ください。

と き：11月27日(日)  
1回目 午前10時～正午 / 2回目 午後2時～4時  
講 師：しまだともみ氏(絵本作家)  
参 加 料：500円(材料費込み)  
定 員：各回10名(先着順) ※小学校低学年以下は保護者同伴。  
そ の 他：汚れても良い服装で、はさみと絵の具セットをお持ちください。  
参加方法：美術館へ電話で申し込む

◆展覧会「絵本の系譜Ⅲ 語る・伝える・絵のチカラ 宮城県美術館所蔵 絵本原画展」  
会 期：10月22日(土)～12月4日(日)※会期中は無休  
開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
入 館 料：一般…700(300)円、大学生…500(200)円、高校生以下…無料  
※( )内は市民割引券を利用した際の料金です。



はんこでつくるオリジナル絵本

KOSUGI HOAN  
MUSEUM OF ART,  
NIKKO

小杉放菴記念日光美術館

## 参加者の声でつなぐ 公民館の教室・講座紹介

### ⑦軽スポーツ教室(湯西川公民館)

湯西川公民館の軽スポーツ教室は、7/59月の全6回を湯西川体験農業交流センターの体育館で開催しました。この教室は、毎回、参加者がいくつか用意されたスポーツの中から、好きな物を選んで体験できます。今回用意されたスポーツは、バドミントンや卓球の他、ディスクを投げて、落としたパネルに書かれた数字の合計で競うディスクターゲットと、筒の中の矢を競技的に掛けて吹き飛ばすスポーツ吹き矢です。これらは、二ニュースポーツと呼ばれ、技術やルールが比較的簡単で、誰でも、どこでも、楽しめるよう新しく考案・紹介されたスポーツの一つです。

江さん(湯西川温泉湯平)にお聞きしました。  
Q 教室に参加しようと思った理由を教えてください。  
A いろいろな公民館講座に参加しています。今回も楽しそうなので参加しました。  
Q 教室に参加してみたいかですか？  
A 新しいスポーツにも挑戦できたいです。機会があったら、もっとたくさんの人に参加してもらいたいですね。普段、体を動かす機会がなかなかないので、運動不足の解消になりました。今日で終わってしまうのは残念です。教室に参加した皆さんは、楽しく汗を流して、心も体もリフレッシュしたようでした。



ディスクターゲットの様子



激しいラリーが続きます



ろうそくの火を吹き消す要領で!

## 歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1(市図書館隣) ☎226217  
開館時間 午前9時～午後6時(入館無料)  
休館日 毎週月曜日、祝日

### ◆業務案内 「文書の整理」

広報にっこう2010年6月号の歴史民俗資料館通信で取り上げたように、当館では展示を開催するだけでなく、さまざまな業務を行っています。その中で最も時間と手間のかかる業務が、収集した資料を整理する作業です。

現在、有識者に依頼して、小来川支所に残る古文書の整理を行っています。何千点という古文書のホコリを落とし、番号を付け、そのリストを作成する、地道な作業です。しかし、こうした作業があるからこそ、これまで知られていなかった歴史に光を当てることができ、展示などを通して市民の皆さんに、その成果を伝えることができるのです。  
この業務の中で、注目すべき史



古文書の整理作業

料が発見されました。それは、帝国在郷軍人会小来川分会長が小来川村会議長宛てに出した建議書です。大正12(1923)年の関東大震災に際し、救援のため東京市に派遣されている小来川分会員の派遣費用を村費で補助してほしいと願っているものです。この建議書には、建議が原案通り議会で可決され、実際に補助がなされたことも追記されています。帝国在郷軍人会は、戦時の動員の準備や国民の思想統制を主な目的として設立されましたが、こうした救援活動を行うなど非常時にも機能していたことが分かる史料です。



小来川分会の建議書

◆催し ◆  
移動博物館「戦中・戦後のくらし」  
11月27日(日)まで

## 市民文芸

### 川柳 選者 山本 都留米

後戻りできずつり橋前のめり 青木照雄  
初心者も辞書を頼りに名句読み 植田義雄  
原発はノーと首振る扇風機 白戸武夫  
虫の音を聞きつつ今日も感謝する 高野邦子  
法螺吹きもトランペットも口で吹き 酒井喜麿  
買う気などサラサラなくて試食する 塚原トモエ  
あやまるが心の中は別世界 手塚俊美

### 俳句 選者 伊藤 清

水澄みて朝日きらきら浮かしけり 鈴木キヌ子  
阿羅漢の慈悲の眼深し秋時雨 渡辺ミチ子  
流鏑馬の 一矢秋気貫けり 星野恒志  
運動会年を忘れて綱を引く 佐藤知明  
老僧の法話しんみり盃盃盆会 徳本英子  
秋祭にぎわい見せる蔵の街 櫻沢総一  
群がりて畦道かざる彼岸花 小檜山忠

### 短歌 選者 阿久津 伸一

鎮もれる雲をまといし男体山は斑紋 関根眞佐子  
描きし湖を抱きて 根立郷美  
台風の逸れて安堵はしたなれど上陸 予報は父、母の里  
六十年連れ添える夫の唇を愛しみつつ叔母は清める 狐塚昭子  
幾千の時を溶かしてなほ澄めり九寒 溝の朝音もなく 播磨重美  
側に居てやけに聞こゆる蟬の声明日 大森トミ子  
はあらぬ命はかなむ 星 恭子  
夏の葉を旧知のごとく交し合い深山の夏の西湖の道ゆく 村田登美  
姫てまり貴婦人のごとき名をもちてなせに野草の陰にし咲くか

### 作品を募集しています!

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、郵送またはFAX、メールでご応募ください。  
なお、作品中の漢字には、ふりがなを明記してください。  
応募先及びくわしくは、秘書広報課 広報広聴係  
☎(21)5135・FAX(21)5109